

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析（概要版）

I 令和3年度 全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・本取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日及び対象学年、調査方式

令和3年5月27日（木）

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年、原則として全児童・生徒

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査

小学校調査は、国語及び算数。中学校調査は、国語及び数学。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ①児童・生徒に対する質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- ②学校に対する質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

1 平均正答率について

○小学校

全国平均と比較して国語、算数ともに上回った。
平成31年度と比較して国語、算数ともに都平均との差が小さくなった。

○中学校

全国平均と比較して国語、数学ともに上回り、平成31年度と比較して差が大きくなっている。
国語は、都平均と同等である。

2 平均正答数について

○小学校

国語は14問中、9.3問（都9.5、国9.1）、算数は16問中、11.6問（都11.8、国11.2）である。
全国と比較して、国語が0.2問、算数が0.4問上回った。

東京都と比較して、国語・算数ともに0.2問下回った。

○中学校

国語は14問中、9.3問（都9.4、国9.0）、数学は16問中、9.5問（都9.6、国9.1）である。

全国と比較して、国語は0.3問、数学が0.4問上回った。

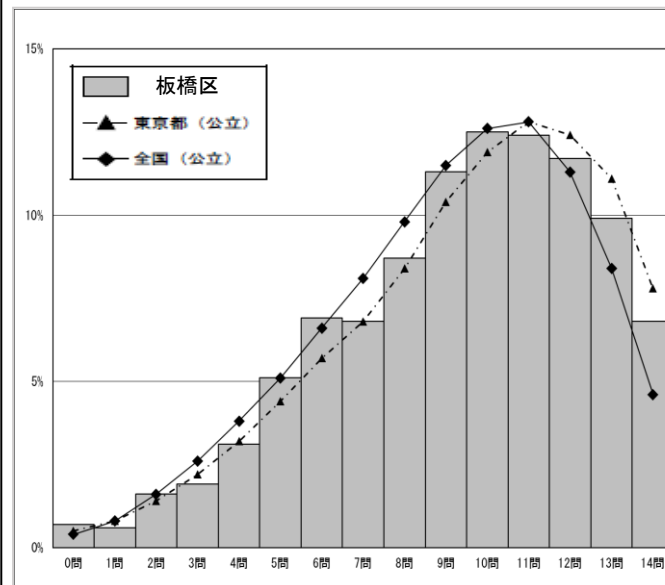
東京都と比較して、国語、数学ともに0.1問下回った。

2 平均正答数 ※各平均正答数を全国と東京都と比較した。

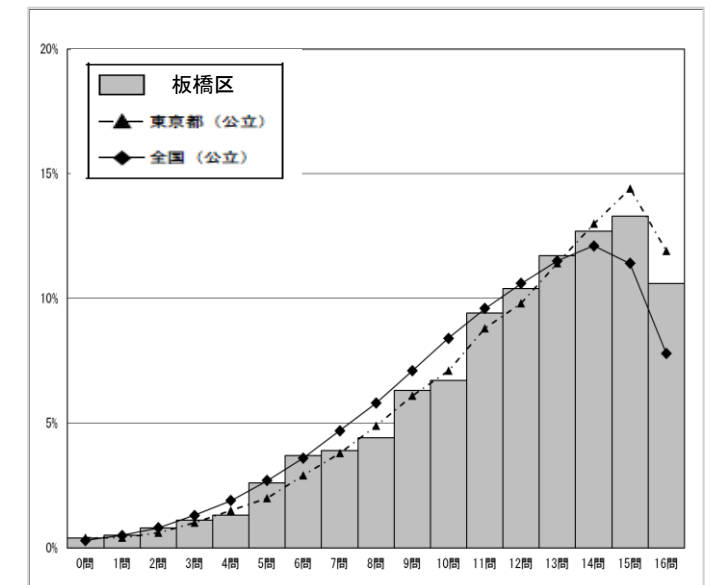
正答分布グラフから（横軸：正答数、縦軸：割合）

(1) 小学校

【国語】

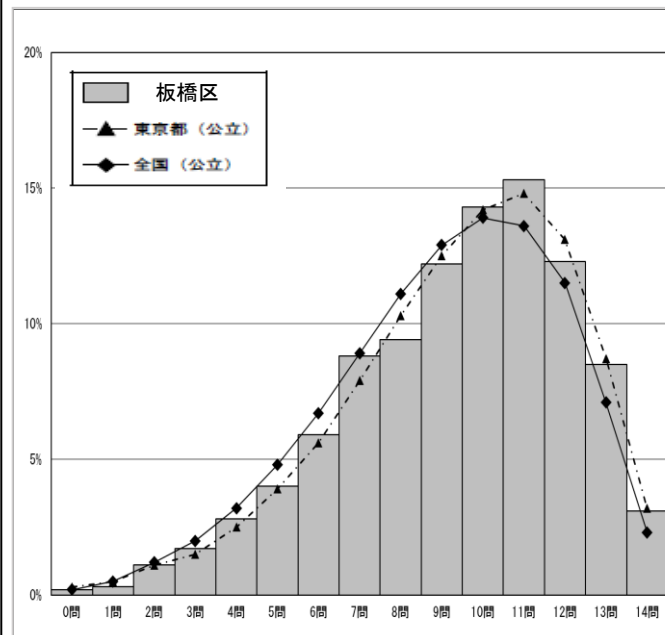


【算数】

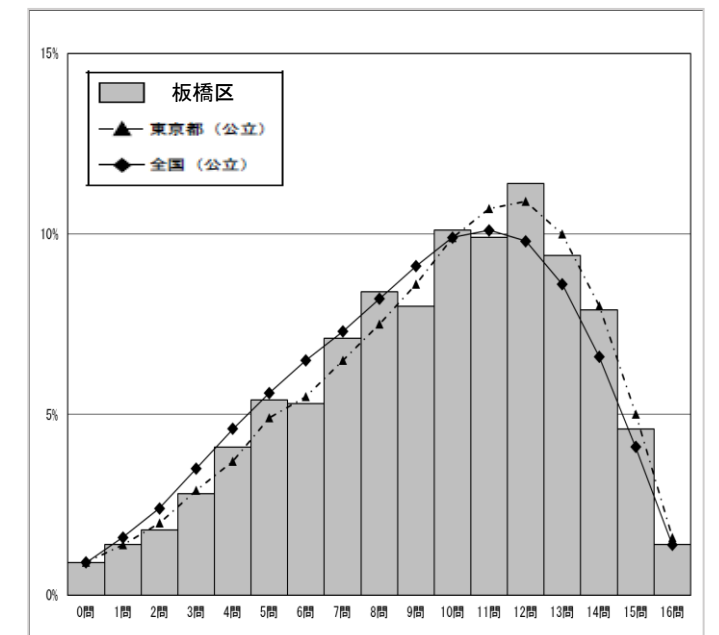


(2) 中学校

【国語】



【数学】



II 教科に関する調査結果

1 平均正答率（令和3年度における板橋区・東京都・全国の正答率）

※国語、算数・数学の平均正答率を東京都・全国と比較した。

平成30年度までは、国語、算数・数学においては、A問題とB問題に分かれている。

小学校 (全国との差)		平均 正答率(%)		平成31年度 における差	平成30年度 における差	平成29年度に おける差
国語	区	67	差	-1.8	A 2.6	-0.7
	国	64.7	2.3		B 1.5	0.2
算数	区	72	差	0.2	A 2.2	-0.3
	国	70.2	1.8		B 2.5	-0.1

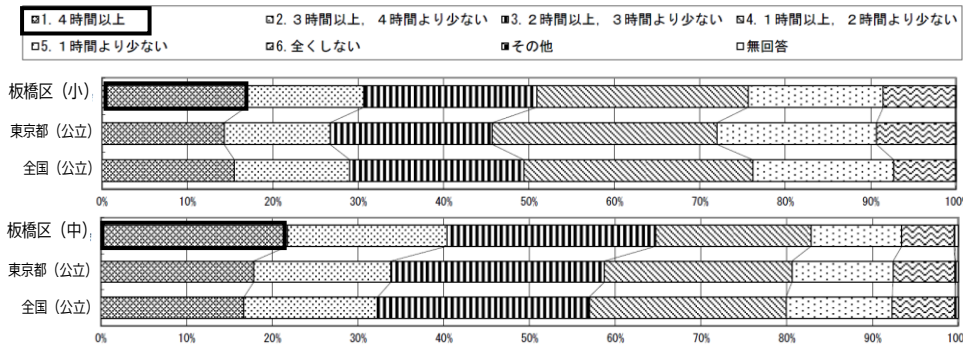
中学校 (都との差)		平均 正答率(%)		平成31年度 における差	平成30年度 における差	平成29年度に おける差
国語	区	67	差	-1.8	A -1.4	-1.4
	都	67	0		B 0.3	-1.0
数学	区	59	差	-2.2	A -0.6	-2.2
	都	60	-1		B -1.9	-2.1

小学校 (都との差)		平均 正答率(%)		平成31年度 における差	平成30年度 における差	平成29年度に おける差
国語	区	67	差	-3.2	A -0.7	-1.9
	都	68	-1		B -0.8	-2.3
算数	区	72	差	-3.1	A -1.3	-2.3
	都	74	-2		B -1.0	-3.2

Ⅳ 児童・生徒質問紙に関する調査結果

1 携帯電話やゲーム等への関心

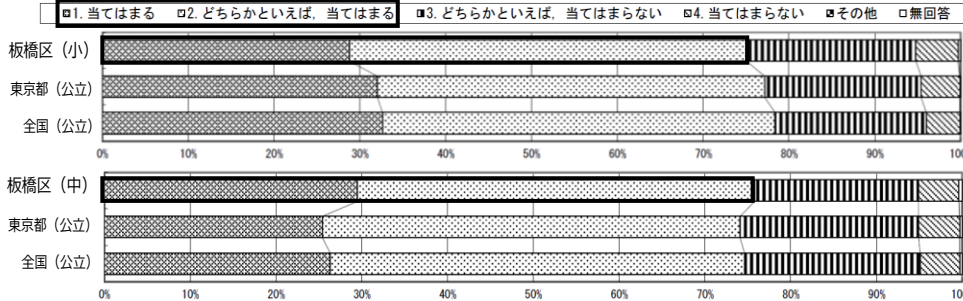
- 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



○「1日当たり、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）を4時間以上する。」と回答した児童・生徒の割合は、小・中学校共に全国や東京都と比較して多い。

2 学校での授業（「板橋区 授業スタンダード」との関連）

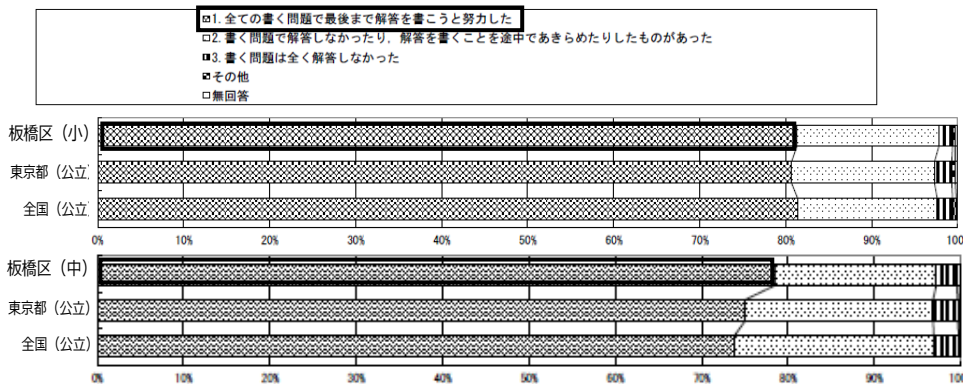
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



○「学習した内容について、わかった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげること」について、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小学校は全国や東京都と比較して少なく、中学校は全国や東京都と比較して多い。振り返りの時間の設定や質の向上に向けて、継続的な取組が必要である。

3 書く活動（国語）

- 解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか

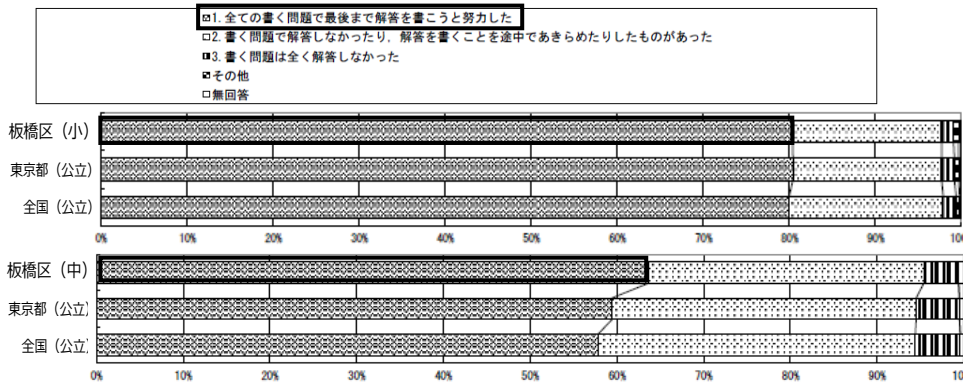


○全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童・生徒の割合が、小学校は東京都と比較して多く、中学校は全国や東京都と比較して多い。

○一方、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の児童の正答率は、東京都より低い。正答条件を半分満たしている誤答が最も多く、問題を正確に把握する力を育成する必要がある。

4 書く活動（算数・数学）

- 言葉や数、式を使って、説明する（わけや求め方などを書く）問題について、どのように解答しましたか。



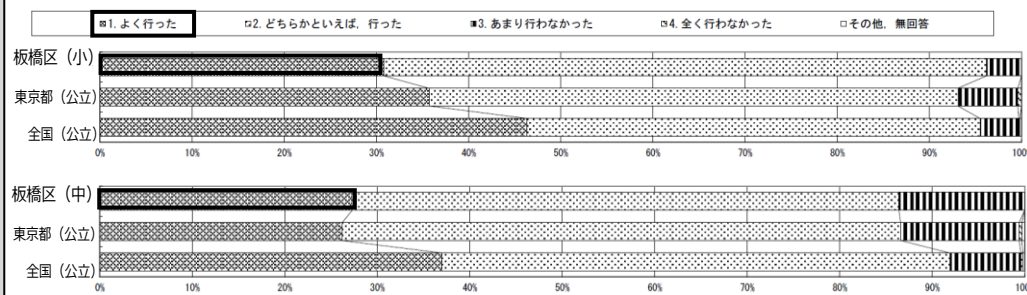
○全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童・生徒の割合は、国語と同様である。

○一方、求め方を記述したり、事柄の特徴を数学的に説明したりする問題において、小・中学校共に東京都と比較して低い。グラフや図を正確に把握する力を育成する必要がある。

Ⅴ 学校質問紙に関する調査結果

1 家庭学習

- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。（教科共通）

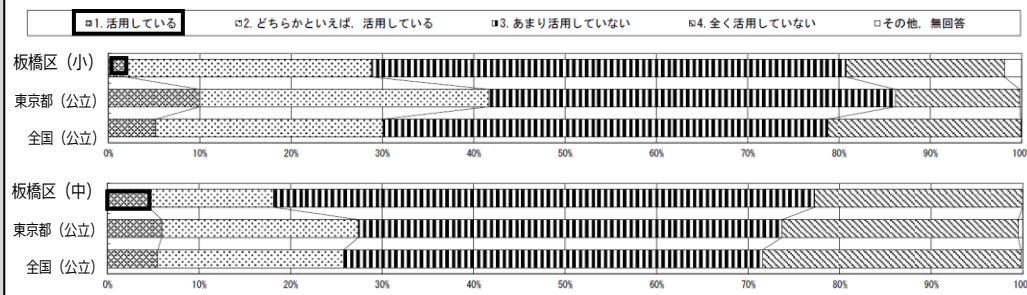


○家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えることについて、「よく行った」と回答した学校の割合が、小学校では全国や東京都と比較して低く、中学校では全国と比較して低い。児童・生徒が自主的に学習に取り組むためにも、より一層丁寧な支援が必要である。

2 授業ICTの活用

- あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか

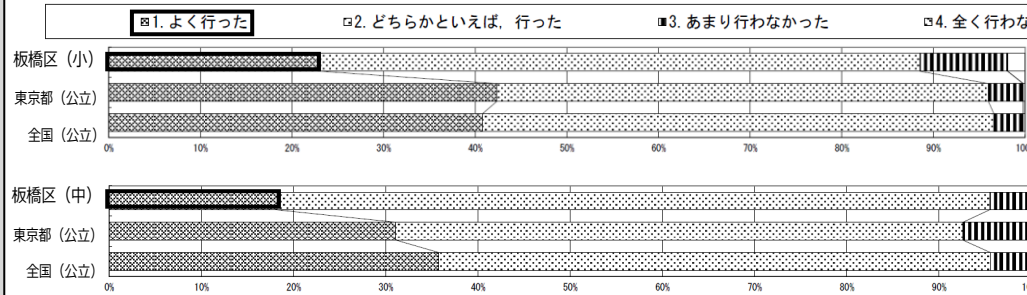
③児童同士がやりとりする場面



○児童（生徒）同士がやりとりする場面でICT機器を活用した取組について、「活用している」「どちらかといえば、活用している」と回答した学校の割合は、小・中学校共に全国や東京都と比較して低い。今後、一人一台端末の普及により、活用の機会が広がることが考えられる。

3 児童・生徒への評価

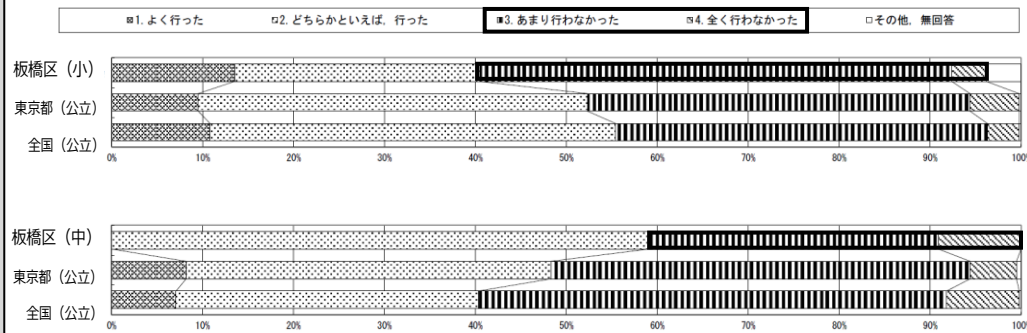
- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしましたか。



○児童（生徒）のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしたかについて、「よく行った」と回答した学校の割合が、小・中学校共に全国や東京都と比較して少ない。形成的な評価の充実が、一層求められる。

4 考えを書いてまとめる指導

- 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字（400字詰め原稿用紙2枚）程度で児童（生徒）にまとめさせたことがありましたか。



○各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字程度で児童（生徒）にまとめさせたかについて、小学校では「あまり行わなかった」「全く行わなかった」が5割を超え、中学校では約4割である。小学校段階から、自分の考えを言葉でまとめる活動を、継続して取り組むことが大切である。

(別紙) 平均無回答率

平均無解答率(%)

小学校		令和3年度		平成31年度		平成30年度		
国語	区	5.6		9.1		A	3.4	差
							4.0	-0.6
	都	5.4	差	7.4	差	B	3.5	-0.1
			0.2		1.7		4.8	差
	国	4.5	差	6.2	差		4.8	0
			1.1		2.9		3.8	1.0
算数	区	3.2		3.9		A	2.7	差
							2.8	-0.1
	都	3.0	差	3.2	差	B	1.6	1.1
			0.2		0.7		7.7	差
	国	2.6	差	2.7	差		8.7	-1.0
			0.6		1.2		7.9	-0.2

中学校		令和3年度		平成31年度		平成30年度		
国語	区	3.9		3.0		A	3.2	差
							3.5	-0.3
	都	3.8	差	2.7	差	B	3.1	0.1
			0.1		0.3		2.5	差
	国	4.4	差	2.6	差		2.9	-0.4
			-0.5		0.4		3.0	-0.5
数学	区	6.4		7.2		A	3.0	差
							3.5	-0.5
	都	10.5	差	7.2	差	B	3.3	-0.3
			-4.1		0		11.3	差
	国	11.2	差	7.3	差		12.7	-1.4
			-4.8		-0.1		12.6	-1.3

1 平均無回答率について

- 小学校は国語・算数ともに、全国や東京都の平均と比較して、その差が少なくなっている。
- 中学校は国語が東京都の平均と比較して高いが、全国平均より低い。
数学は、全国や東京都の平均と比較してどちらも低い。

2 無回答率の高かった問題について（漢字を文の中で正しく使う問題については除外）

- 小学校の国語では、「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」趣旨の問題の無回答率が、12.2%（東京都 11.6%、全国 9.6%）
算数では、「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる」趣旨の問題の無回答率が、12.1%
（東京都 12.0%、全国 10.3%）